

第5B（中）分科会 —教職員の専門性に関する課題—

提案主題 コンプライアンス意識の醸成を図る研修のあり方
～研修内容の工夫を通して～

司会者	日出町立日出中学校	土谷 功
提言者	日出町立大神中学校	古田 展久
助言者	別府市立緑丘小学校校長	永井 宏道
記録者	日出町立南端中学校	藤原 健

1 協議の柱

- ・各校で行われているサービス規律研修の課題解決に向けた教頭の役割はどうあればよいか。

2 協議の実際（内容）

（A班）

- ・教育公務員としての自覚・認識を高めていく必要がある。
- ・職員のサービスに関する意識をどう高めていくか。（研修のあり方）
- ・各郡市の教頭会でサービス規律等の研修を広めていく。

（B班）

- ・研修の充実を図り、職員にどう意識化するか課題である。
- ・交通違反研修が日常の運転につながるよう進める。
- ・防災について、避難場所としての研修をしていくことも大切である。

（C班）

- ・サービス研修の意義を明確にし、教頭として課題意識をもって取り組む。
- ・タイムリーな話題を職朝等で知らせる。
- ・研修内容、研修時間、場所の確保を行うこと。

3 指導助言

- ・職場の仲間を不祥事が起きた後は守れない。未然防止のためにも、継続的に言い続けることが大切である。
- ・日出町のすべての学校がサービス規律研修に関して、研究し実践できているところがよい。
- ・サービス研修でワークシートを使用し、自分を振り返ることができ、自覚できる研修となっている。
- ・年間4回のサービス研修をどうつなげていくかが、今後の課題となる。
- ・教職員同士のチェック機能を充実させ、サービス規律についていつも意識・継続させ、つなげることが職員を守ることになる。
- ・広島県のチェックシートを参考に研修を深めることも一つの方法である。